

# 実習事前学習としてのオンライン交流を通じた学生の学び

真下 知子、小林 君江

幼稚園教育実習の事前学習として、従来行ってきた見学実習の代替として、園とのオンライン交流を実施した。また、その教育効果に関する探索的な検討として、交流に関する振り返りレポートの記述をKJ法によって分析した。結果より、対面での見学と比較して、様々な制限がある中でも、学生は多面的に子どもや指導者の行動を観察し、指導者に必要な資質や、今後、自身が身に付けるべき知識や技術について、具体的な視点を見出していることが明らかとなった。

キーワード：幼稚園教育実習、事前学習、オンライン交流、ICT

## 1. はじめに

コロナ禍においては、大学の授業実施について多くの点で検討が必要となり、本学の幼稚園教諭養成課程においても様々な授業方法の工夫が求められた。1年生の2月に1回目の幼稚園教育実習を実施する本学では、従来、その事前学習として9月に幼稚園の見学実習を行ってきた。入学当初から多くの専門科目で幼児教育について学んでいるものの、10月の保育実習Ⅰ（施設）で児童福祉施設での実習を経験する学生や、個人的にボランティア等で保育現場に足を運んでいる学生を除いては、2月までに実際に子どもと関わる機会はほとんどない。そのため9月の見学実習は、子どもの発達や活動の様子、幼稚園の一日の流れを知るために貴重な機会であった。当時は、学生をそれぞれ20名程度のグループに分け、複数の園、複数の日程に分散して訪問し、半日の観察を行っていた。しかし、コロナ禍では、本実習の受け入れ自体が難しく、2020年度の見学実習はやむなく中止となった。そこで、代替手段として2021年度から実施しているのが、園とのオンラインによる交流である。

子どもと養成課程の学生との遠隔交流に関す

る取組は数少ないが、参考となるいくつかの先行研究がある。川口・徳岡（2021）は、保育者や小学校教諭、特別支援学校教諭を目指す学生とこども園との交流を行い、オンライン環境特有のやりとりの難しさが生じたが、学生が自ら言葉や動作を工夫して克服しようとする様子が見られたこと、活動を通して、保育・教職に対するポジティブな意識変容があったことを報告している。岸ら（2021）は、小学校教諭養成課程の学生が小学校の授業参観、及び交流をオンラインで実施し、システム上の課題を指摘するとともに、対面とは異なるものの、子どもたちとの関わりに十分な臨場感が得られたことを示している。また、Kim（2020）は、コロナ禍において教育実習の代替手段として園児と保護者、個々の学生を自宅からオンラインでつないだ実践を行っている。そして、子どもの反応を通して保育技術の改善につながる気付きが得られたこと、学生同士の学び合いも促進されたという効果を報告している。しかし、これらはいずれもコロナ禍による試行的な実践段階であり、その教育効果や今後の活用可能性については、さらに検討する意義があると考えられる。

本研究では、その探索的な検討として、交流後の学生による振り返りレポートの記述をKJ法によって分析した。本稿では、その分析結果より、交流を通して学生が得た気づきや学びについて報告する。また、オンライン交流の今後の活用可能性についても考察する。

## 2. 内容・方法

### 2-1 オンライン交流の実施

(1) 実施時期：2022年9月

(2) 実施方法

1年生後期、教育実習総論Ⅰの第3回目に幼稚園教育実習の事前学習として実施

(2クラス合同の講義・演習を2コマで実施)

(3) 参加者

大学：幼児教育学科1年生99名、授業担当教員2名

幼稚園（京都府の私立幼稚園）：5歳児60名、担任教諭2名

(4) 接続方法・時間

Google Meetにより約30分間接続した。大学の教室は広角、幼稚園の保育室は標準のウェブカメラ各1台を用いて、参加者全員が映るように設定した。

(5) 授業の流れ

90分授業をクラス毎に、以下の流れで2コマ連続して行った。なお、登園や給食等、園での生活時間に合わせるため、後に実施したクラスでは①と②の順序を入れ替えた。

①事前説明・確認（約10分）

②幼稚園の一日に関する動画視聴・解説（交流園の姉妹園にて事前に撮影・編集）（約30分）

③5歳児との交流（約30分）

- ・5歳児のクラス紹介
- ・学生からの手遊び、クイズ、ダンス等

・園児からの歌

④担任教諭から学生へのメッセージ（5分）

⑤振り返りレポートに関する説明（5分）

交流の様子を図1、図2に示す。



図1 オンライン交流の様子（大学側）



図2 オンライン交流の様子（幼稚園側）

### 2-2 振り返りレポートの内容と分析

動画視聴と解説、ライブでの交流を含めた第3回目の授業後に、振り返りレポートを記述し、第

4 回目の授業で提出するよう求めた(前述 2-1 (5)の⑤)。

倫理的配慮として、振り返りレポートの記述内容は、今後の授業改善を目的として研究対象となること、得られたデータは個人が特定されないように処理され、成績とは無関係であることを事前に説明した。また、研究の成果は、学会や論文等で公表される場合があることを伝え、同意と理解を得た。

記述項目を以下に示す。

[1] 動画を視聴して

- 1) 園の様子
- 2) 先生の関わり
- 3) 一日の生活について気付いた事

[2] オンライン交流について

- 1) 交流の中で印象に残っている事柄
- 2) 保育者に必要なこと、目指す保育者像

[3] この授業を通して感じたこと

### 3. 結果・考察

レポートの提出者は、94名であった。前述の項目の内、[2] オンライン交流の 1) 交流の中で印象に残っている事柄、2) 保育者に必要なこと、目指す保育者像に関する記述を内容毎に分割し、筆者ら2名がKJ法による分析を行った。分析は3段階まで行ったが、誌面の都合上、大中の項目と件数及び回答者数に対する割合を示す。

#### (1) 交流の中で印象に残っている事柄

交流の中で印象に残っている事柄としては、表1に示すように、「子どもの姿」に関する記述が84件と最も多数であった。子どもの行動から何を思い、何を考えているのか、その気持ちを読み取ろうとしていることがうかがえる。中でも、子どもたちが、遠隔でつながっている学生

と共にダンスやクイズなど様々な活動を「楽しむ」様子に関する記述が29件(30.9%)、子どもの大きな声や元気な様子、5歳児らしい反応など「子どもの姿」に関する記述が24件(25.5%)と多数であった。次いで、子どもの一生懸命に取り組む様子や主体性など「意欲」に関する記述が17件(18.1%)であった。また、クイズ等を通して気付いた、子どもたちの好むスポーツやキャラクター等、子どもの「興味・関心」や、粘り強さや集中力など「子どもの力」、様々な仕事から捉えた「子どもの多様性」、「子どもの優しさ」に関する記述が見られた。

続いて大項目では、子どもと保育者のやりとりに注目し、保育者の力に言及した記述が42件(44.7%)あった。これは、子どもたちが元気に挨拶する姿、先生の話をしっかり和聴く様子、リズム感のある歌など、事前準備を含めた保育者の「指導力」についての記述であった。

また、学生側からの働きかけに対する「応答」についての記述が15件(16.0%)、園児の歌や行動についての「感動」に関するものが4件(4.3%)等、双方向のコミュニケーションに関する記述が19件あった。そして、少数ではあるが、他の学生がカメラの前で行う発表方法が参考となった等、互いに学び合う効果に関する記述も見られた。実際の記述例を以下に示す。なお、( )内は中項目の見出しである。

#### 【子どもの姿】

- ・クイズに正解した時には、嬉しそうに喜んでいった。(楽しむ)
- ・合図の前に正解を口々に言ってしまう姿が子どもらしい(子どもの姿)
- ・大きな声と大きな身振りで一生懸命発表していた姿(意欲)
- ・誰かが話し始めると、先生の注意がなくても静かになっていた(子どもの力)

- ・スポーツや動物の名前を知っていてすごいと思った（興味・関心）
- ・後ろの方におとなしそうな園児が、躊躇しながらも参加しようとする姿（子どもの多様性）
- ・自分のことだけでなく、相手の気持ちも理解出来ている（子どもの優しさ）

【保育者の力】

- ・挨拶や質問をしたときに、全員が大きな声で元気よく答えてくれた
- ・子どもたちが先生の話をしっかり聞き、カメラに映るように座っていた（指導力）

【コミュニケーション】

- ・私たちの話を一生懸命聞いて、反応してくれた（応答）
- ・子どもたちが私たちのために歌ってくれたことに感動した（感動）

【学びあい】

- ・他の学生の声掛けを聞いて、なるほどと思った（学び合い）

このように、固定カメラ1台のみを設置した約30分の交流の中でも、学生が様々な視点から子どもや保育者の行動を観察し、捉えていることがうかがえた。

特に、前でクイズやダンスを披露した学生が園児とやりとりを行い、その反応から得た印象や気づきが印象的であった。これは、園児とのリアルタイムによる交流独特のものであり、授業で視聴するビデオ教材とは異なる点として注目に値する。また、積極的に交流に参加している子どもだけではなく、画面の端に写っている多様な子どもの姿を捉えていることや、前で実践している学生の行動を観察して学ぼうとする姿も興味深いものである。

(2) 保育者に必要なこと、目指す保育者像

保育者に必要なこと、目指す保育者像については、表2に示すように、指導方法の工夫に関する記述が78件と最も多数であった。中項目毎に見ていくと、子どもたちにわかりやすい言葉を使う、はっきりと話す等、「伝える力」に関する記述が23件(24.5%)と最も多数であった。続いて、子どもが自らその活動をしたと思えるような声かけや子どもが集中して取り組める工夫など、「子どもの興味・関心を引き出す」ことに関するもの、園児が自ら考える機会を作ること、一人ひとりの考えに耳を傾けるなど、「子どもの意見を尊重する」ことに関する記述が、それぞれ15件(16.0%)あった。また、計画的に保育を行うといった「計画性」、ピアノ技術の大切さなど「音楽の指導技術」、クラス全体を「まとめる力」、予想外のような反応にも対応できる「臨機応変」に関する記述等が見られた。

続いて、大項目では「子どもを観る」に該当する記述が49件であった。この中では、子どもの目線に立つ、子どもの言葉に耳を傾ける、気

表1 交流の中で印象に残っている事柄

大項目	中項目	記述件数	割合
子どもの姿	楽しむ	29	30.9%
	子どもの姿	24	25.5%
	意欲	17	18.1%
	興味・関心	6	6.4%
	子どもの力	5	5.3%
	子どもの多様性	2	2.1%
	子どもの優しさ	1	1.1%
小計		84	
保育者の力	指導力	42	44.7%
	応答	15	16.0%
コミュニケーション	感動	4	4.3%
	小計	19	
学び合い	学び合い	2	2.1%
	合計	147	

※割合は回答者数(94名)に対する値である。

持ちをくみとる、気持ちを代弁するなど、「子どもの気持ちに寄り添う」ことに関する記述が22件(23.4%)と最も多数であった。また、全体を見る、観察力を身に付けるなど「観察力」についての記述が11件(11.7%)、一人ひとりを見ること、その子どもに合ったサポートをすることなど「一人ひとりに応じた援助」についても11件(11.7%)であった。その他、一人ひとりの変化に気付くなど「目配り・気遣い」に関する記述が見られた。

次に、大項目では、「子どもと共に楽しむ」が38件であり、子どもたちと一緒に活動し、生活を楽しむといった「子どもと共に楽しむ」に該当する記述が29件(30.9%)と多数であった。また、笑顔で接する、楽しい園生活を送れるようにするなど「優しさ・笑顔」に関する記述が9件(9.6%)あった。

また、幼稚園教諭として「身に付けるべき資質」に関する記述が18件あり、苦手なことについても努力し続ける、自信をもって接するなど「先生としての姿勢」に関する記述が9件(9.6%)、手本となる行動をとる、マナーを伝えるなど「モデルを示す」、子どもを理解するためにしっかりとコミュニケーションをとるといった「コミュニケーション力」、保育をするうえで「体力」の重要性を述べる記述が見られた。

最後に、子どもや保護者から信頼される保育者になりたい、保育を進めていく上で信頼関係をしっかりと築くことが必要など、「信頼関係を築く」ことについての記述が12件(12.8%)あった。

実際の記述例を以下に示す。なお、( )内は中項目の見出しである。

**【指導方法を工夫する】**

- ・はっきりと、皆にわかりやすいように話すこと(伝える力)

- ・子ども自身が、その活動をしたと思えるような声掛けや雰囲気作り(子どもの興味・関心を引き出す)
- ・園児が主体となって動けるように促すことができる先生(子どもの意見を尊重する)
- ・目的をもち、計画を立てて遊びを行うこと(計画性)
- ・子どもをまとめられるような声掛け(まとめる力)
- ・段取りを頭で組み立てつつ、臨機応変に対応を考えられる(臨機応変)

**【子どもを観る】**

- ・子どもと同じ目線で物事を考える(子どもの気持ちに寄り添う)
- ・しっかりと子どもたちの様子を見ること(観察力)
- ・一人ひとりをしっかりと見て、適切な対応ができる(一人ひとりに応じた援助)
- ・誰に対しても目を配ることができる(目配り・気遣い)

**【子どもと共に楽しむ】**

- ・一緒に楽しんだり、何かに熱中したりできる先生(子どもと共に楽しむ)
- ・周りの雰囲気を良くできるような、笑顔をもつ先生(優しさ・笑顔)

**【身に付けるべき資質】**

- ・最初はできなくても努力し続けること(先生としての姿勢)
- ・常にお手本となる行動をすること(モデルを示す)
- ・子どもだけでなく、保護者のサポートもするため、コミュニケーション能力が必要(コミュニケーション力)

**【信頼関係を築く】**

- ・自分の気持ちを伝えたいなど思ってもらえる信頼される先生(信頼関係を築く)

表2 保育者に必要なこと、目指す保育者像

大項目	中項目	記述 件数	割合
指導方法を 工夫する	伝える力	23	24.5%
	子どもの興味・ 関心を引き出す	15	16.0%
	子どもの意見を 尊重する	15	16.0%
	計画性	7	7.4%
	音楽の指導技術	7	7.4%
	臨機応変	6	6.4%
	まとめる力	5	5.3%
	小計	78	
子どもを 観る	子どもの気持ち に寄り添う	22	23.4%
	観察力	11	11.7%
	一人ひとりに 応じた援助	11	11.7%
	目配り・気遣い	5	5.3%
	小計	49	
子どもと共に 楽しむ	子どもと 共に楽しむ	29	30.9%
	優しさ・笑顔	9	9.6%
	小計	38	
身に付ける べき資質	先生として の姿勢	9	9.6%
	モデルを示す	4	4.3%
	コミュニケー ション力	4	4.3%
	体力	1	1.1%
	小計	18	
信頼関係を築く	信頼関係を築く	12	12.8%
	合計	195	

※割合は回答者数 (94名) に対する値である。

このように、スクリーンの限られたスペースに映し出される子どもと保育者の様子から、学生は、保育者として必要な力を様々な角度から捉えていることがわかる。それは、伝え方や興味・関心を高める働きかけ、まとめる力、音楽の指導技術など、交流時の保育者の行動から得

た情報だけではない。短い交流で観察した園児と保育者のやりとりから、保育の計画性や日頃の子どものに対する指導内容、園児と保育者の信頼関係等、保育を行うための基盤となる事柄についても気付き、これから自身が身に付けるべき力として認識していることが見て取れる。

### 3. まとめと今後の課題

本稿では、実習事前学習として実施した学生と園とのオンラインによる交流を通して、学生が何を感じ、何を学んだのか、学生の振り返りレポートの分析を行った。結果より、対面と比較して様々な制限がある中でも、学生は多面的に子どもや指導者の行動を観察しており、指導者に必要な資質や今後、自身が身に付けるべき知識や技術について、具体的な視点を見出していることがうかがえた。学生からの働きかけに対して、即時に子どもたちからの反応が得られることは、DVD教材にはないオンライン交流ならではの特徴である。双方向にやりとりする学生の姿からは、子どもへの関心や親しみが増し、早く子どもたちと実際に関わりたいという気持ちの高まりが感じられた。

また、対面での交流では、賑やかな雰囲気や側で接する子どもに圧倒され、全体を見るとき余裕がもてない場合も少なくない。しかし、オンラインの交流では、少し離れた視点から冷静に子どもを観察しようとする傾向が見られた。今後、以前のような対面での見学も可能となってくると考えられるが、オンライン交流のメリットを活かし、15回の授業の中に上手く位置づけることで、より良い教育効果が期待できる。

今後の課題としては、次の2点が挙げられる。一つ目は、異なる年齢での交流の実施である。今回は、5歳児との交流であったが、他の学年で、発達段階の異なる子どもを対象とした場合、異

なった反応が予想され、学生にとってより良い学びとなると考えられる。さらに、何度か続けて交流を行うことも、子どもの成長を継続して観察する機会として有意義であろう。

二つ目は、交流が大学生の学びの機会になるだけでなく、園児の育ちにも役立つ方法を工夫することである。平成 29 年告示の幼稚園教育要領、第 1 章総則第 4 節 3 指導計画の作成上の留意事項 (6) 情報機器の活用において、「幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、幼稚園生活では得難い体験を補完するなど、幼児の体験との関連を考慮すること」とある。今回の交流では、ICT の活用によって、距離や時間的な制約を超えて、園児と大学生の双方向のやりとりが実現した。お互いに楽しい時間を共有できたと考えられるが、遠隔での交流が幼児にとって、どのような意味をもつのか、子どもたちの反応や指導者の考えについても調査する必要がある。今後は、幼児の成長に寄与す

る形での ICT 活用という視点でも十分な検討を行い、学生と園児の双方の成長に活かす方法を模索していきたい。

## 付 記

本稿は、真下・小林 (2023) の口頭発表を元に再構成してまとめたものである。

## 引用文献

- Jinyoung Kim (2020). Learning and Teaching Online During Covid-19: Experiences of Student Teachers in an Early Childhood Education Practicum, *International Journal of Early Childhood*, 52: 145-158.
- 川口めぐみ、徳岡大 (2021). 保育・教育系学生による 5 歳児とのオンライン交流活動の試み、高松大学・高松短期大学研究紀要、76、1-17.
- 岸誠一、姫野俊幸、溝田知茂、村井隆人 (2021). コロナ禍における小学校とのオンラインによる交流の試み - 小学校教育基礎研究の授業を通して -、中国学園紀要、20、113-119.
- 真下知子、小林君江 (2023). 実習事前学習としてのオンライン交流を通した学生の学び、日本教育工学会 2023 年春季全国大会、345-346.
- 文部科学省 (2017). 幼稚園教育要領 平成 29 年 3 月告示
- 文部科学省 (2018). 幼稚園教育要領解説、フレーベル館

